



日本共産党広島県委員会

Tel 082-228-3366 Fax 082-227-8120  
Mail jcph@nifty.com国民の苦難軽減と  
政治のゆがみを正す党の姿伝えたい

コロナ危機が国民生活にどんな被害や困難を引き起こしているのか……

くらしの最前線で取材を続けてきた、しんぶん赤旗広島県記者の宮中里佳さんによる「コロナ取材レポート」です。

「しんぶん赤旗」日刊紙に掲載された広島の記事  
3月=33本 4月=29本 5月=11本(5/18現在)

## 宮中記者の最前線レポート

## ■医療関係者や業者のみなさんから

この間、大平喜信前衆議院議員や地方議員などと一緒に、コロナの影響で困っておられる医療関係者や業者のみなさんから切実な要望を聞いてきました。大平さんと事務所周辺（八丁堀）のいくつかの飲食店に伺い、党の「コロナQ&A」パンフを渡しながらか店先で状況をお聞きしました。深刻な実態とともに、政府の「支援策」に対して堰を切ったように批判の声が寄せられました。大幅に売り上げが落ち不安でいっぱい焼肉店店主から「自民党はもうダメよ、こういう時は共産党しか来てくれない。ありがとう」と言われ、私たちの方が励まされることもありました。

## ■弱者の味方、共産党の出番

「河井事件」がこの間大きく動いています。河井夫妻が県内の首長や地方議員らへ現金を配っていたことなどが判明し、4月の第1回公判は177人、5月の第2回公判では209人もの人が傍聴券を求めて駆けつけました。その中のお一人から河井夫妻への怒りとともに「選挙があるなしに関わらず、共産党の議員はよう頑張ると。わしも頑張らんといけんのうという気持ちになるよ」と声をかけられました。また、検察庁法改正案の抗議宣伝では、大平さんの怒りの訴えを自転車に止めて最後まで聞く男

性の姿も。「コロナで仕事が減り収入も減った。1回限りの10万円だけじゃ生きていけない。弱者の見方の共産党の出番じゃ」と激励の声をいただきました。

## ■浮かび上がった政治のゆがみを正す

5月24日に中国5県の県議らによるオンライン会議が行われました。地方議員が地区・支部の皆さんとともに困っている人の声を聞き行政に届けて要求実現に奮闘しているとりくみがいくつも紹介されました。西日本豪雨災害の時にも感じましたが、「国民の苦難を軽減し、安全を守る」という立党の精神が今その真価を發揮していると日々実感しています。

来るべき総選挙に向け、日本共産党の勝利、何よりも大平さんの当選に向けて頑張らないといけません。コロナ危機の中で浮かび上がってきた日本の政治のゆがみ、それを正面からただ「日本共産党」の役割を、今後も赤旗で大いに紹介していきたいと思っています。

じゃけえ！  
日本共産党大平喜信Twitter  
LIVE配信中[https://twitter.com/tekuteku\\_diary](https://twitter.com/tekuteku_diary)